

名前【 】

神戸新聞 2021年03月11日 木曜日 面名 西播 13 24ページ

医薬品配送やパトロール

# ドローン活用 光都で実験

同空域で複数機制御

小型無人機ドローンを多様な分野で活用するための社会実験が7日、たつの市と上郡町、佐用町にまたがる播磨科学公園都市内であった。物流、警備、空撮、設備点検用に計4機のドローンを準備。同じ時間帯、同じ空域に複数の機体を飛ばすなどし、光都プラザ(上郡町光都2)内に設けた管制室で安全な運航ができるかどうかを見守った。(勝浦美香)

## 無事終了「商用レベル近い」

播磨科学公園都市では、用途が異なる複数のドローンを一つの管制システムで動かす実験に挑戦した。システムは携帯電話大手のKDDIが新たに開発した。

光都プラザ前の芝生広場で

新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が進める「ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト」の一環で、2022年をめぐりに有人地帯で人的な補助なくドローンを飛ばすのが目標。今回は、兵庫県が新産業創造研究機構(NIRO、神戸市)とともにドローン推進事業に取り組み、約200台の東播磨高原東小学校付近までその姿を捉え続けた。

双方のドローンがすれ違う実験もあり、管制室のスクリーンには接近を知らせるサインが表示されたが、機体は一定の間隔を保ったまま接触することなく飛行を続けた。

ほかに、播磨科学公園太陽光発電所(たつの市新宮町光都2)では赤外線カメラを搭載したドローンでパネルの故障を点検し、ダイセル播磨光都サッカー場(上郡町光都3)では子どもたちの試合を空撮して戦術を分析する検証があった。

統括役を担ったKDDIドローン事業推進グループの杉田博司さんは「予定通り進められ、システムが商用レベルに達しつつあることが分かった。今後は全国的に広げ、実際の利用に近い形で実験を重ねたい」と話した。

①小型無人機ドローンを多様な分野で活用するための社会実験がどこで行われましたか。

②新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が進める何というプロジェクトの一環として行われましたか。

③参加した企業などが行ったことを書きましょう。

㊶ KDDI

㊶ 日本航空(JAL)

㊶ セコム

㊶ 播磨科学公園太陽光発電所

㊶ ダイセル播磨光都サッカー場

③ドローンでどんな実験ができるか考えてみましょう。

サッカーの試合を空撮し、戦術分析に用いる実験もあった。上郡町光都3



管制室にはタブレット端末が並び、異なる用途で動く4機のドローンを管理した。上郡町光都2

